

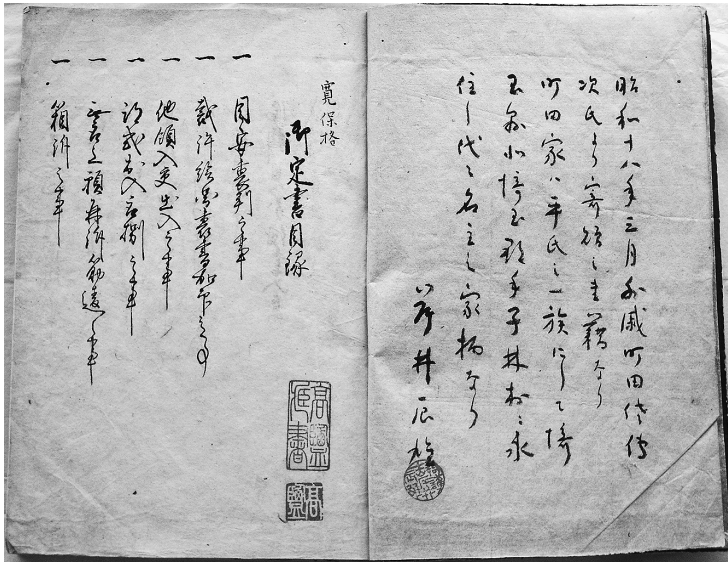
國學院大學學術情報リポジトリ

「公事方御定書」を改訂した幕府法律書：
「寛保律」百箇条について：史料篇

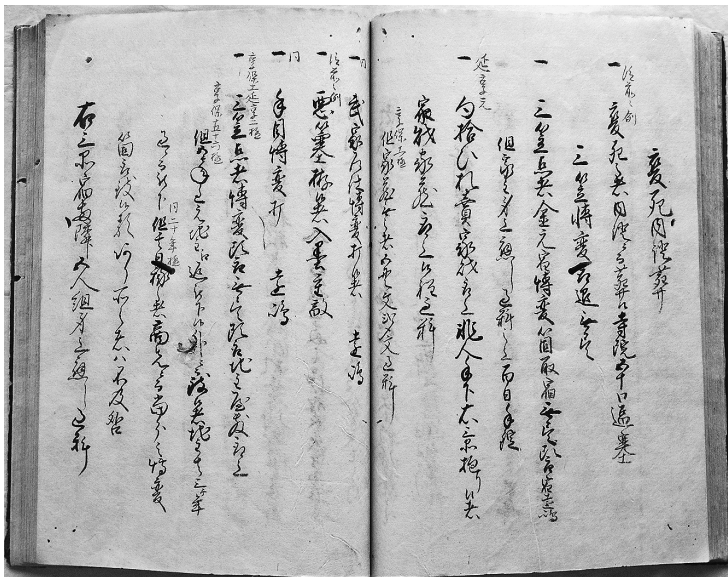
メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国学院大学法学会 公開日: 2024-06-04 キーワード (Ja): 公事方御定書, 寛保律 キーワード (En): 作成者: 高塩, 博 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000465

「公事方御定書」を改訂した幕府法律書
——「寛保律」百箇条について——史料篇

高
塩
博



「寛保格御定書」冒頭 (本文36頁)



「寛保格御定書」第54条変死内証葬之事、第55条三笠博弈取退無尽之事 (本文60～61頁)

《史料翻刻》

凡 例

一 ここに「寛保律」と称する法律書は、延享三年増修の「公事方御定書」下巻を改訂した幕府法であり、百箇条の法文を有する。本稿は、拙稿「公事方御定書」を改訂した幕府法律書「寛保律」百箇条について」の史料として、左記を翻刻するものである。

「寛保格御定書」一冊（著者蔵）

一 本書は、縦二三・〇糎、横一六・六糎にして、本文の墨附八二丁であり、半丁に八行で書写する。その表題は目録の冒頭に「寛保格御定書目録」とあるのから採った（口絵参照）。表紙には題簽や打付書がともに存しない。なお、本文とは別筆で、「御定書百ヶ条」という小口書が存する。

一 本書は、埼玉県北埼玉郡手子林村（現、羽生市手子林）の旧家町田佐傳次氏の家に伝わったもので、初鹿野家の蔵本を転写した伝本である。江戸時代の手子林村は上・中・下に分かれており、かつ幕府領・各藩領・旗本知行地など、その支配は入り組んでおり（『羽生市史』上巻二九〇～三〇一頁、昭和四十七年）、町田家がどの支配に属していたかは未詳である。

一 書写の時期を示唆する記載は見当たらない。転写の間に生じた誤字脱字は相応に存するが、法文の脱落は比較的少ない。底本に採用した所以である。おもな脱落は左の通りである。

- ・ 目録第三十三条
- ・ 第四十四条の題号
- ・ 第五十条の第十三項但書
- ・ 第五十二条の第四項但書

・第六十六条の第五項本文および但書

・第七十一条の第三項本文

その他、第三条第三項、第六条第一項、第四十五条第九項、第五十九条第二項、第一百条第十九項などに脱文が見られ、第三十二条第四項に衍字が存する。

本書には条文番号が与えられていない。法文の右肩には、朱書による「従前之例」「享保五年極」「寛保二年極」などの簡条肩書が存する。簡条肩書はくまなく存する訳ではなく、存しない法文もまた多い。

一 翻刻に当たっては、左の諸本をもつて校合した。

1 「御公儀百簡条御定書」(著者蔵)

2 「御大法御定書百簡条」(三重県立図書館武藤文庫蔵)

3 「御定書」(明治大学図書館蔵)

4 「公事方秘書 全」(著者蔵)

1 は、底本と同じ奥書を持ち、脱文や誤字脱字に共通する箇所が多いので、系統を同じくする伝本と思われる。表題は内表紙への打付書による。奥書の次に書写年と所有者に関し、「于時天保十_{己亥}／孟春吉辰／武州埼玉郡／横根村橋本氏」という記載が存する。埼玉郡横根村は現在の埼玉県岩槻市のうちにあり、江戸時代は幕府領である。条文番号が朱書にて記され、簡条肩書は墨書される。

2 は、三重大学教授であった武藤和夫氏(明治四十四年(一九一)～昭和五十一年(一九七六))の旧蔵本である。表題は表紙への打付書による。裏表紙に「萩野所蔵」とあり、書写に関する奥書は存しない。楷書に近い文字によるきわめて丁寧な書写である。条文番号が朱書にて記され、簡条肩書が墨書にてごく部分的に存する。

3 は、法学者であり政治家でもあった鵜澤總明氏(明治五年(一八七二)～昭和三十年(一九五五))の旧蔵本である。同氏は

明治大学総長もつとめた。本書は、縦一三・七糎、横一九・六糎の横帳で、表題は巻頭の「御定書目録」から採った。条文番号が朱書により記され、簡条肩書は存しない。

4 は、内務省神祇局の旧蔵本である。前半に「公事訴訟取捌」、後半に「寛保律」を載せる。後半部は「御定書目録」で始まり、書名が記されない。「公事方秘書 全」は題簽に記された表題であり、前半と後半との両者を示す書名であるが、3 と区別するためにこちらの表題を採用した。条文番号を朱書し、墨書による簡条肩書が部分的に存する。書写に関する記載は存しない。

一 翻刻に際しては、判読に便ならしめるために原文に読点・並列点を施し、条文ごとに一行を空けた。また、校合の文字は（ ）をもって示した。

一 朱書の箇所は、ゴシックで表記した。ただし、ゴシックの漢数字は編者の与えた条文番号である。

(題簽なし)

(第一丁裏)

昭和十八年三月、外戚町田佐傳次氏より寄贈之書籍なり、町田家ハ平氏之一族にして埼玉県北埼玉郡手子林村ニ永住し、代々名主之家柄なり、

岸井辰雄 印

(高塩注―印文は「弁護士岸井辰雄」)

寛保格

御定書目録

一 目安裏判之事

- | | |
|----|---------------------------------|
| 二 | 裁許絵図裏書加印之事 |
| 三 | 他領入交出入之事 |
| 四 | 跡式出入取捌之事 |
| 五 | 無取上願再訴筋違之事 |
| 六 | 箱訴之事 |
| 七 | 諸役人非分私曲訴之事 |
| 八 | 裁訴仕置之事
<small>(許)(直)</small> |
| 九 | 吟味銘々宅ニて仕事 |
| 十 | 重御役人知行出入之事 |
| 十一 | 用悪水新田堤川除出入之事 |
| 十二 | 論所地改之事 |
| 十三 | 論所見分伺書(二)入事 |
| 十四 | 裁許(二)可用証拠之事 |
| 十五 | 出入扱願不取上筋之事 |
| 十六 | 扱日数之事 |
| 十七 | 誤証文之事 |
| 十八 | 盜賊火付之事 |
| 十九 | 旧悪御仕置之事 |
| 二十 | 背裁許差紙不請者之事 |

三十九	二重質同書入売渡之事	四十一	廻船荷物取捌之事
三十八	家質其外品、書人之事	四十二	偽り証文之事
三十七	分散之事	四十三	譲屋敷之事
三十六	無取上借金之事	四十四	奉公人給金濟方之事
三十五	利足定之事	四十五	奉公人宿請之事
三十四	借金銀出入之事	四十六	欠落奉公人御仕置之事
三十三	（一）質地滯米金日限之事	四十七	捨子御仕置之事
三十二	質地小作之事	四十八	養娘遊女奉公之事
三十一	田畑永代売買并隠地之事	四十九	隠売女之事
三十	身代限之事	五十	密通之事
廿九	地頭強訴并取鎮候事	五十一	女犯之僧之事
廿八	闕所之事	五十二	三鳥派不受不施之事
廿七	賄賂之事	五十三	新規神仏之事
廿六	人別帳三不加他之者差置（候）事	五十四	変死内証葬之事
廿五	雑用村割之事	五十五	三笠博奕取退無尽之事
廿四	戸ノ之事	五十六	盗人御仕置之事
廿三	御留場鳥殺（生）之事	五十七	盗物質取買取候事
廿二	隠鉄炮之事	五十八	悪党訴人之事
廿一	関所破之事		

五十九	倒死捨物手負病人之事	七十八	科人為立退并住所隱候(者)之事
六十	捨物之事	七十九	人相書を以可尋者之事
六十一	人勾引之事	八十	科人欠落尋之事
六十二	謀書謀判之事	八十一	拷問可申付品之事
六十三	火札捨文之事	八十二	遠島再犯御仕置之事
六十四	巧語り重キねたり之事	八十三	牢逃手錠拔并立婦者之事
六十五	申掛御仕置之事	八十四	辻番人御仕置之事
六十六	似金銀藥種之事	八十五	塩詰死骸之事
六十七	出火咎之事	八十六	溜預之事
六十八	火付御仕置之事	八十七	無宿片付之事
六十九	人殺疵付候者御仕置之事	八十八	縁談之事
七十	下手人二不成之事	八十九	質物出入取捌之事
七十一	怪我ニて果候相手之事	九十	煩旅人宿送之事
七十二	婚禮石打之事	九十一	百姓町人帶刀咎之事
七十三	あはれ者御仕置之事	九十二	新田(え)無斷引移之事
七十四	酒狂人御仕置之事	九十三	闕所地隱之事
七十五	療治代之事	九十四	御仕置者之忤出家願之事
七十六	乱心人殺之事	九十五	村方帳面無印之事
七十七	拾五才以下御仕置之事	九十六	輕惡事在之者出牢之事

- 九十七 一 妻を売女ニ出候御仕置之事
 九十八 一 追放入墨ニ成候者再悪事致候事
 九十九 一 榊秤私ニ造り相手^(用)候者之事
 百 一 御仕置仕形之事

寛保格

百ヶ条終

一 目安裏判之事

〔従前之例〕

一 寺社并同門前、関八州之外私領、関八州之内ニても寺社領、御府内へ懸り候出入、月番寺社奉行裏判、

〔従前之例・延享二年極〕

一 江戸町中、御府内へ懸り候出入、月番町奉行裏判、
 一 関八州御料私領、関八州之外御料より御府内へ懸り候出入、月番御勘定奉行裏判、

〔享保六年極〕

右双方名主家主五人組立合可済、若不埒^(明)候ハ、七日^(之)内ニ双方罷出候様、裏判可遣候、尤借金銀之事、組支配違^(え)懸り候出入は評定所へ呼出ス、一ツ支配ハ其奉行所ニて吟味之上裁許申付、在方国^(書)懸り候出入は、何月幾日評定所へ罷出可対決と致裏付、三奉行懸り之月番初印、一座加印、

〔享保七年極〕

一 山城 大和 近江 丹波、双方共京^(都)町奉行取捌、

〔同〕

一 和泉 河内 摂津 播磨、双方共大坂町奉行取捌、

(従前之例)

右八ヶ国之内ニても、京都大坂町奉行支配違、又は余国へ懸り(候)出入ハ、寺社奉行月番初判、尤双方共三同支配之出入は、江戸え訴出候ハ、支配之奉行(所)へ罷出候様申渡、無取上、

二 裁許絵図(裏)書加印之事

一 国郡境 御老中加印、三奉行連印、(右之)外絵図(裏)書を以裁許之時は、三奉行連印、

三 御料私領地頭違出入之事

享保六年極

一 遠国奉行支配、御代官(所)、并私領百姓、地へ懸り(他)候出入は、其所之奉行御代官地頭分断在之上ニて可取上、無断内ハ百姓願出候共、無取上、

(同)

一 地頭分百姓出入、地頭へ断(有之)候共、取捌可済旨申聞、取上問敷、勿論地頭より断無之百姓願は、地頭へ可相願旨申渡、無取上、猶又不済由地頭分申聞は、頭支配

へ申立候様可相違、但、地頭(非)分之申付ニ聞へ候ハ、伺之上可取上事、

(同)

一 御料百姓出入、其支配(之人無添状は不取上、品ニ分支配)え申通、尚亦滞候ハ、対談之上可取上事、

(前々)

一 寺社分領主え懸り候出入、寺社百姓、私領百姓(え)懸り候出入、一通り地頭へ申達、不済上可取上、

四 跡式出入取捌之事

享保二年極メ

一 跡式又は養子出入、他領へ懸り合、訴出候ハ、先方之地頭裁許不審(之)事候ハ、地頭え承り届ケ候上、猶又不致落着は可伺事、

同三年極メ

一 加判人在之慥成讓状、并加判人無之候ハ、(之も)当人自筆ニて印形無相違書物、怪敷於無之は、讓状之通跡式可申付、格別之筋違ニ候ハ、吟味之上、筋目之者へ可申付事、

五 無取上願再訴筋違之事

同五年極メ

一諸願申出候ハ、一通吟味之上、難立願^(ニ)候ハ、難立趣申聞、重て願出候ハ、過料可申付事、

（享保五年・寛保二年極）

但、奉行所^エ願無取上、過料申付候処、却て箱訴并御老中若年寄衆^エ訴訟^(ニ)罷出候ハ、奉行所^エ呼出、猶又遂吟味、難立願おゐては、再過料可申付事、

同五年

一親子兄弟其外親類^ニても、御咎メ御免願は、再往願出候共、不及咎事、

同六年

一惣て願之儀は、筋違申出候ハ、其筋へ致対談、難立願は無取上旨、其筋之奉行所^ニて相応之咎メ、

但、難立願、奉行所^ニて無取上筋申渡、同役^{（五）}え右之願申出^ニおゐては、寺院侍ハ押込、町人百姓ハ手錠可申付事、

同

一三奉行^エ不訴出、直^(ニ)評定所へ訴訟^(ニ)罷出候者ハ、懸り奉行へ罷出候様申渡、其筋之奉行^ニて吟味落着之儀

は、一座相談之上可申付事、

同

一親類縁者之由^ニて訴状差出候節、当人難^(願)出訳も候ハ、当人為願可申旨申渡、取上間敷候、

六 箱訴之事

同寛保元年

一難願立訴状入候者、手錠宿預^(三)致置、宿免許再往願候ハ、（重て訴状入候ハ、）可咎旨申聞、当人^{（五）}証文申付、日数無構手錠可免事、

但、寺院ハ本寺触頭、浪人ハ地主家主等^エ預置、免許之願申出候節、前書之通証文取之可差免事、

（同）

一度箱訴致、手錠免候後、又^ニ入候ハ、在町共江戸払、

但、宿預手錠申付、願不止メ者も江戸払、

七 諸役人非分私曲訴之事

同享保六年

一諸役人非分私曲訴^(出)候ハ、其役人^エ一通り達、猶又

不済由願出候ハ、其旨(相伺)、御差図次第取計、裁許之儀は相伺可申事、

八 裁許仕置之事

元文三年極

一奉行所諸役所私領ニて前々裁許有之、事済候儀、年月過、裁訴^(許)非分之由申立、再吟味願出候とも取上間敷、然共、訴訟方慥成証文等有之、相手方ニは証拠無之、先達(て)裁許必定過失ニ相見へ候ハ、伺之上詮議取掛可申事、

但、相手方不尋して不叶儀も候ハ、評議之上、其支配人地頭へ一通相尋可申(候)、猥に相手召呼申間敷候、

同五年

一不願出共、奉行所ニて評議之上、先裁許改可然義ハ、伺之上可申付事、

九 公事吟味銘々宅ニて仕候事

享保六年

一公事吟味式日立合(え)差出、即日不済儀は、懸り奉行宅

ニて日数不懸様ニ吟味を詰メ、一座評議之上、裁許可申付事、

十 重御役人^(知行)評定出入之事

同五年

一御老中・所司代・大坂御城代・若年寄・御側衆・評定所一座、右之分(領)地出入訴出候節、不及伺取計、裁許之趣相伺可申事、

十一 用悪水新田堤川除出入之事

同

一諸国村々用悪水(新田)堤川除、他領々懸り合出入訴出候時ハ、御料私領双方役人呼出、双方障り無之様致熟談可済旨申聞、訴状相渡、其上不相済段、双方々役人申出候ハ、其子細糺、取上可及吟味事、

十二 論所見分并地改之事

元文五年

一国郡境ニても双方立合、絵図御国絵図大概無相違於ハ、

不及検使、（裁許）可有之（候）、入組不申儀ハ、猥（二）検使遣間敷候、

同

一 検使不遣候て難決儀、国郡境ハ御番衆御代官、村境は御代官計可遣、組、^{（但）}入組不申論所は、郡境ニても其辺之御代官為致見分、可有裁許事、

享保五年

一 田畑山林等出入、絵図書付等ニて難分、地改不仕候て不決候ハ、不及伺、御代官手代差遣、地改相致可申事、^{（為）}

十三 論所見分伺書人品ミ之事

同十一年

一 論所之町分反別ハ勿論、証拠ニ引取（候）諸帳面証文之文言之内、其事之員数等書出し可申候、絵図面之内ニて極候儀ハ、右絵図入用之処計を小絵（図に）いたし可差出候、

寛保三年

一 絵図面計ニて不分儀ハ、其傍ニ断書を加へ申可、但、字数多候ハ、絵図ニ番付之文字計記、別紙伺書ニ番付改之合紋付、可差出候事、

十四 裁許可証証拠書物之事

元文五年

一 御朱印・讓狀・古証文・古水帳、地頭（え）出置候書物^{（付）}等、其紙面疑敷儀於無之ハ証拠（二）可用、私ニ記置候書物・寺社縁記、猥（三）不可用事、

享保六年

一 寺社願、本寺触頭へ相尋、頭ニて可致吟味筋は、本寺触頭（え）吟味可申付事、

同

一 本寺触頭を相手取候敷、亦是本寺触頭（え）願出候ても押付置候ニ付、不得止事願出候類ハ、添簡無之候共、取上可致吟味候事、

一 寺社領之町人百姓、地頭非分之儀ヲ申出候類ハ、地頭寺院或は神主等呼出シ、様子相尋、品ニ付取上可致吟味候事、

享保元年

一 宗法ニ拘候公事訴訟之儀は、取上申間敷候、尤本寺触頭ニて咎申付候ても、及難決候者、亦是他宗俗人交り候出入は、取上可致吟味事、

十五 出入扱願不取上品之事

同二年

一火付・盜賊・人殺・人勾引・逆罪・名主私曲非分・博奕
三笠取退無尽・隠売女、

(元文三極)

右之外、公儀懸り候出入、扱候儀願出候共、為扱申間
敷候事、

十六 扱日数之事

元文五

一公事扱願出候節、日数廿日ニ可限、但、遠国懸り合候
出入は、往來日数極可申付事、

十七 誤証文之事

同

一相手不致得心ニ、押て誤証文取間敷候、縦(令)誤証文差
出候共、其証文ニ不抱^(拘)、理非次第裁許可有事、

十八 盜賊火付吟味之事

同

一盜賊火付改え不渡、其手切ニて可致事、

十九 旧惡御仕置之事

延享(元極) 寛保三 同二年

延享元

一逆罪、邪曲人殺、火付、徒党、人家押込、追剥、人家
(え)忍入候盜人

同

一公儀御法度(を)背、死罪以上之科(ニ)可被行者、但、役
儀ニ付て私欲押領致候者、輕候共、相応之咎可有(之)事、
右旧惡永尋申付置候分、御仕置伺可申候、此外(之)科一
旦惡事候共、其後相止、外之沙汰も無之、十六ヶ月以上^(三)
之旧惡は、不及咎メ候事、
但、十二ヶ月内吟味取懸り、十二ヶ月以後済候と
も、旧惡ニは不相立事、

二十 裁許背裏判差紙不請者之事

從前々之例

一裁許不請者、中追放、

同

一 裏判差紙不請者、所払、

同

一 裁許一旦請、内証にて不用破候者、中追放、

二十一 関所破候者御仕置之事

同

一 関難所山越候者、并案内之者、於其所磔、
（関所難通）

但、男ニ誘引忍通候女、奴、

同

一口留番所、女（ヲ連）忍通り候者、中追放、

但、女ハ地頭（え）渡ス、

二十二 隠鉄炮在之村方咎之事

享保三（元）

一 隠鉄炮所持（之）者、持来候者、同打候者、江戸十里四方
御留場之内、遠島、右之外関八州、中追放、同八州之
外、所払、右ニ付名主組頭、重過料、八州之内名主与
頭、右同断、八州之外名主与頭急度叱り、五人組御留場
之内過料、惣百姓十里四方ハ輕過料、御留場の内壹ヶ年

過怠ニ鳥番、

寛保元

一 廻り場之内、三度以上打候を不存者、野廻り役義可取
放、

但、野廻り之居村ニ、隠鉄炮致所持候者在之ハ、右同
断、

享保六

一 御留場之内、隠鉄炮打、捕へ候者、御褒美銀貳拾枚、

同

一同訴人、銀五枚、

二十三 御留場鳥殺生致候者御仕置之事

従前々

一 網或は綱縄にて鳥殺生之者、過料、右村名主組頭、過料、

同

一 鳥売買、双方過料、度々売買致候者、（共）過料、

二十四 村方戸メ無之事

元文五

一村方戸メ（ハ）不申付、輕ハ叱り又ハ過料、夫々之御定在

之事、

但、江戸町続村方、町奉行支配之分、戸ノも可申付候、然とも、過料ニて可済ハ可為過料、村中ニも侍鉢ハ戸ノニも申付、

二十五 雑用村割之事

寛保三

一公事願江戸宿雑用、双方共一村へ懸り候儀ハ、銘々持高ニ割、其(身)一分之出入は、兩人ニて可差出、難差出身之上は、親類割合可申付、邪成不屈(之)願を、五人組之者乍存異見を(も)不加、其分ニ差出為願候ハ、不埒ニ候間、右之類は五人組えも割合可申付、

享保三

但、一分之儀、当人分可差出者、御仕置(三)成候ハ、身代限可償候、

一村方ニて狼藉又は不屈者、(百姓)心付、捕出候ハ、入用雑用、公儀より可被下候、他分差口又は支配人分捕遣候ハ、不心付捨置候儀不念ニ付、村中割合可申付、

寛保四

一公儀地頭より触候役懸り、其外村入用公事出入之雑用、惣百姓入作百姓可為高割、

同

一山方野方浦方塩浜、無高小高二、家数多場所え家抱下人共、人別ニ可為割、但、妻子ハ人別可除、

同

一山林埜原入会地を割候節、入作百姓共一同可為高割、

同

一祭札・勸化・奉加、可為心次第、

同

一前一割合極置、出入無之所は、可為只今(迄)之通事、

二十六 人別帳ニ不加他之物差置候事^(者)

一他之者差置候当人并置候者、共三所弘、名主重過料、与頭同断、^(過料)

二十七 賄賂差出候者御仕置之事

一公事訴訟諸願請負(事)等ニて、賄賂(を)遣候者并取持候者、名主は重過料、組頭同断、^(過料)取持候者、品ニ分輕追放、

但、賄賂請候者、其品返シ於申出ハ、賄賂出候者并取
持人、村役人ニ候ハ、役儀取上、平百姓ニ候ハ、過料
可申付事、

二十八 闕所之事

從前之例
延享二年極

一磔 火罪 獄門 死罪 遠島 重追放、右之分、田畑家
屋敷家財闕所、但シ吟味之内病死候ハ、吟味詰、御仕
置可申付者ニ決候ハ、伺之上闕所可申付、中追放、田
畑（家）屋敷、輕追放、田畑計闕所、下手人、不及闕所、
此外江戸十里四方・所払・江戸払ニても、利欲ニ拘候義
は、田畑家屋敷闕所、貪たる義無之は、不及闕所、

前之例

一御扶持人ニても、重追放以上同斷、

私領百姓、公儀御仕置（二）成候ハ、闕所地頭え取上
可申旨可申渡事、

但、田畑質地入置候ハ、証文吟味之上、定法質地ニ
候ハ、質入之田畑払代金を以、質取候者え元金可
渡、不足有之ハ地面可渡、若又年貢滞有之ハ、質入候

地面、払代金を以、先年貢引取、質取主えは殘金を以
元金可渡、不足は金主可為損事、

寛保元

一夫御仕置（二）成候者、又は欠落之節、当人貸置候金子并
売買金手形、帳面ニ有之候共、借主^{（不）}有及上納、

但、借主右金子ニ不埒も候ハ、取立可致上納事、

延享二

一在町共、家屋敷質（三）入置候者、御仕置ニ成、右家屋敷
闕所之節、金子請取度旨願出候ハ、証文吟味之上、於
（無）相違は質地同前（三）可申付事、

二十九 地頭強訴并取鎮候事

寛保元

一頭取死罪、名主重（追）放、組頭田畑取上所払、惣百姓村
高（三）応し一等多二等多輕（ク）可伺、於未進無之ハ不及
重咎、

一村々百姓、催シ徒党令騒動、強訴或ハ追放^{（之）}し者有之節
ハ、名主又は与頭等、押え置、取鎮候者えは、御褒美被
下、其身一代帶刀名字可為名乗、

但、其品輕きハ、御褒美銀計被下候事、

三十 身代限り申付方之事

從前之例

一 田畑家屋敷家財取上、

但、他所ニ家藏在之候分も(取上)、尤追て身上取立次第可返旨申付、金高余分於在之ハ、滞金ニ応し為相渡申可、小作滞身代限田畑屋敷は金主へ(渡)濟置候上、年々作徳を以滞金於滞ニは、地所元地主え可為返候事、

享保六極

一 店借ニて候ハ、家財取上、

但、地借りニて家作自分ニ仕候ハ、家財家作共取置^(上)可申事、

三十一 田畑永代売買并隠地致候者(之事)

延保(享)元極

一 永代売買候当人、過料、加判名主役儀取上、証人有、^(此り)

一同買候者、永代買候田畑取上、

前之例

一 高請無之開發引田畑等、^(新)其外浪人武家所持之田畑、永代

売無抛、質^(三)取候者、作取ニして質置主年貢諸役勤候分、質取主過料、質取候者、地面取上過料、加判名主も役儀取上、証人叱り、

寛保二極メ

一 隠地致候者 中追放

三十二 質地小作取捌之事

元文二極

一年季明ケ十ケ年過候ハ、質地流地、

但、流地文言無之ハ、年季明十ケ年之内、訴出候ハ、
濟方可申付、

同

一年季之内質地、年季明請戻候様ニ可申付、

同

一年季限り無之、金子有合次第可請戻証文、質地名前并位反別無之、或は名主加印無之不埒証文、年季無差別無取上、名主過料、尤名主不存加印無之は、不及咎、

但、右金主地主、相對之上地主を定、水帳可致旨名主へ可申渡、尤名主質地相名主無之村方は、組頭加印於無之ハ、^(有)定法之通り濟方申付、

寛保元

一年季明不請笑候ハ、可致流地由証文、年〔季候て訴月
 〆〕（季より〆まで衍字）季明候て期月〆二ヶ月過、訴出
 候ハ、流地、

但シ、年季明不請戻候ハ、永ク支配又は子孫（ミ）
 迄構無之旨、且又此証文を以可致支配、或は可致名田
 抔之文言、流地之証文ニ准シ可申候、

従前之例

一 質地ハ元金濟方申付候上、返金滞候ハ、地面金主え
 渡、流地、但、直小作滞候ハ、弁させ可申事、

同

一 質地証文之文言宜、小作証文不明（^將）候ハ、質地定法
 之通裁許、小作滞分不申付、

同

一 質地元地主加判有之候証文、元之地主へ濟方定法之通可
 申付、

但、又質之節、増金借請候ハ、其分ハ又質地候者（^意）
 （三）濟方可申付、

寛保元

一 御朱印地寺社領屋敷譲渡、質地入候寺社、江戸十里四方

追放、但、讓請候質取候者、地面為返、重過料、

同

一 小作滞、質地日切之通申付、其上滞候ハ、身代限可申
 付、

但、作徳之義ハ、米金共、金主小作人え極之通濟方可
 申付、

同

一 小作証文無之共、別小作無相違、本証文定法之通候
 ハ、質地元金計裁許（申付、小作滞）ハ不申付、尤地面
 ハ、小作人〆地主へ可為引渡、

但、直小作ニて証文無之分ハ、書入ニ准、本証文宜候
 共、質地之法ニて裁許不申付事、

前之例

一 小作証文無之、先質地小作之儀は書加有之候ハ、質地
 金小作金共ニ可申付事、

同

一家守小作滞、請狀之通於無相違ハ、当人請人共濟方申
 付、滞候ハ、兩人共身代限可申付、

延享元

一 質地年貢計金主〆差出、諸役ハ地主勤候証文、年季之内

二候ハ、定法之通証文直させ、加判名主過料、置主ハ叱り、質取主(ハ)過料、

但、年季明候ハ、地面可為請戻、年季明二ヶ月過候ハ、定法之通流地申付、両様共(ニ)本文之通り答可申付、

寛保元

一質地之地面を半分直シ小作ニ致し、質地高不殘年貢諸役とも、地主ハ相納候証文、何(れ)も右同斷、

從前々例

一式拾ヶ年已上之名田小作ハ、永小作(ニ)可申付、

寛保四

一質地元金、年季之内致内済、年季明殘金在之旨於及出入ハ、内済之金主(子)ハ地主へ相返し、流地、

從前々例

一質地ニ取置候地面、直小作滞之儀、金子於訴出ハ、小作滞計済方申付、

但、日限之通り不済候ハ、地面取上可渡、

(同)

一質地元金并直小作滞、日限済方申付候節ハ、小作滞之金高無構、元金日限之通可申(付)候、

三十三

質地滞金米日限定之事

一五兩以上(下) 三十日限 一五兩〆拾兩迄 六十日限

一十兩以上 五十兩 一五拾兩〆百兩迄 二百五十日

一十石以上 五十石 一五拾石〆百石迄 二百五十日

一兩以上 閏月共十ヶ月 一貳百兩以上 閏月共十三ヶ月
右日限(ニ)准シ済方申付、滞候ハ、地面金主へ為相渡可申候、尤其人ミ之身上ニ応取計可申候、

三十四 借金銀書入取捌之事

一借金銀 祠堂金 官金 書入金 立替金 先納金 諸人(意)

手間金 手付金 売掛金 仕入金 諸道具預証文ニて借

候類、三十日限済方申付、其後金高(ニ)応シ切金申付、

百兩之切金、一ヶ月式兩 千兩之切金、月拾五兩(同斷事)

延享三極

一御家人又ハ御用達町人等、拝領屋敷之地代店賃書入、金

子借候類、右之方延享元年以来之滞ハ、毎月四日・廿一

日呼出、三十日限済方可申付、右日限之節少シも相済候

ハ、一ヶ月兩度ツ、切金(ニ)為差出、其上ニて相済方

不埒(ニ)候ハ、身代限可申付、

但、呼出候節、致不參候歟、又は済方申付候ても、不

埒^(之)輩在之候ハ、武士方ハ御老中へ申達、寺社在町方ハ急度答可申付、且又不埒之^(食)滞方類ハ、遂吟味、其品ニ分金主可相答候、

一地代金、三十日限済方可申付、店賃金、右同断、

^(從前之例)

右三ヶ条日限ニ可相済候ハ、切金ニ為差出、其上済方不埒候ハ、身代限り可申付事、

三十五 利足定法之事

寛保元極

一家質諸借金、一割半以上ハ利足一割半ニ可直事、

三十六 無取上分之事

從前之例

一連判証文在之諸請負徳用割合請取、定之通、

同

一芝居木戸錢 一無尽金

同

一日寄附込帳ニ記候借金、印形無之分、無宛所分、年号無之分、家質金、利足不書載印形無之分、家質金諸借金宛

所違候証文、右証文在之候共、仲間ニ決候ハ、無取上、但、証文讓請候由申共、証拠無之於ては、取上申間敷事、

同

一百姓を相手取、貸金出入、地頭借りニ相聞へ候とも、地頭裏印并役人奥印形於無之は、地頭借りニは不相立事、

同

一毎月四日・廿一日、毎月兩度宛、借金銀公事訴訟計永裁許可申付候^(事)、

三十七 分散^(申)之付方之事

寛保元極

一貸方之内、割金不得心在之由願出候ハ、分散^(合)請取候様申聞、若不心得候ハ、得心之者計分散割合為相渡可申、尤借方之者身上持次第、割合受取候者も、一同追て懸り候様可申渡事、

三十八 家質其外書入証文捌之事

從前之例

一家質金、何ヶ年以前ニても、金子^(高)(三)応シ日限^(高)(済方)可

申付候、

享保四極

但、日限之上於滯ハ、家質為相渡、日限之内ニて宿賃も濟方可申付、尤年季之内ニても、宿賃滯、三月過訴出候ハ、取上可申候事、

寛保二

一拝領屋敷家質書入於出入及は、屋敷取上、屋敷主百日押込、

一家貸^(質)金滯日限之定

金三十兩以下 四十日限

金三十兩以上 六十日限

金五十兩以上 八十日限

金百兩 百五十日限

但、百兩有余之金ハ、見合日限可申付、尤閏(月)

共三十二ヶ月限、

享保五極×

金千兩以上 右同断

右日限之内之家質も、濟方可申付候、

一髪結床廻り場所、船床、家藏、^(儲)輕成質物、右家貸^(質)に准シ

濟方同し、日限滯ハ証文之品為相渡可申事、

寛保二極

一寺社付之品、書入又ハ壳渡証文を以、於貸置は、借主追院、証人寺院(三)候ハ、逼塞、俗人ハ手鎖、

但、金子不埒之貸方ニ付、濟方不及沙汰、

同

一諸品、壳渡証文ニて慥成質物を以金子借り候類ハ、武士寺社ハ借金之取捌、在町ハ三十日(限)ニメ、相手裏書遣(一)呼出、濟方家貸^(質)日限(之)一倍ニ申付、不濟候ハ、家質之取捌、

三十九 二重質同書入壳渡御仕置之事

同

一田畑屋敷、二重三質入候ハ、置主中追放、名主輕追放、加判(人)所払、

但、二重書入も同断、書人之品、初メ之金主へ為相

渡、後之金主えは家財取上可渡、尤名主加判人馴合、

金子取候ハ、中追放、又後之金子乍存、質取^(地ニ取)置候

ハ、江戸十里四方追放、

寛保四

一 諸商物代金請取、其品不相渡、外^え二重売致、又は可遣品、質^ニ置或ハ売払、横取致候者、金子^ニても亦は雜物^ニても、拾兩以上ハ死罪、拾兩以下ハ入墨敲キ、但、先入牢申付、代金又ハ其品、本人^え相渡候ハ、拾兩以上ハ江戸払、十兩以下ハ所払、右買取候者も不念之筋於在之ハ、其品取上可申候、

四十 廻船荷物取捌之事

同二極

一 荷物出売買致候者、双方（重キ）過料、但、荷物代金共取上、問屋^え可渡事、

同

一 打荷物或は破舟と偽、致押領候者、船頭獄門、上乘死罪、水主入墨之上重敲、

但、吟味之上、浦証文有之候共、類舟無之、差て船痛不申候処、於（致）打荷物ハ、船頭過料十貫文、上乘三貫文、水主不構、

寛保三

一 逢難風、打荷物致候刻、殘荷物を盜取候者、船頭と馴

合、浦証文差出、配分取候名主、於其所に獄門、

同

一 同盜取候荷物、自分土藏（^え）入預り置、配分取候者、死罪、

同

一 同船頭之宿致（^し）馴合、村中之者^え申勸メ配分取候者、重追放、

同

一 百姓之内、重立持運ヒ致世話候者、配分取候者、重追放、

四十一 倍金并白紙手形之事

同元年極

一倍金白紙手形ニて、質地借金等取遣仕候者、不埒^ニ付、濟方之沙汰（^ニ）不及、双方并証人共過料可申付事、

但、金主借主過料、員數之義ハ例^ニ不拘、身上（^ニ）応^し重ク可申付、

四十二 偽り証文之事

享保十七

一金銀借用之証文、及露見(三)候てハ難立筋、又ハ支配頭或(ハ)頭候て申分難立者名を偽り、文言之内へ書入、金銀を借り候者、死罪、

但、右之趣乍存、貸候(三)おゐてハ、借シ候者も死罪、
(書)

四十三 讓屋敷之事

同五

一讓屋敷讓請候町屋舗、町内へ弘メ無之、町名前不改、及出入候ハ、屋敷取上、

四十四 (奉公人給金濟方之事)

同四

一奉公人給金滞、十日限請人へ濟方可申付、
但、日限半金も出候ハ、十日之日延、其上ニて滞候ハ、身代限り可申付、尤主人へ受人人主へ相懸り候ハ、兩人へ可申付、

同十一年極メ

一武士方奉公人も右同断、

但、同断、

同四年極

一主人へ請人之家主へ相届、預(り)証文取置候以後、受人欠落致候ハ、家主へ給金濟方并尋可申付、

但、右立替金、請人之店請へ家主掛候共、申付間敷事、

従前々例

一奉公人病氣ニ付、宿え下り候処、致快氣候得共、給金不相濟、其上外へ奉公ニ於出ニは、請人、闕所江戸払、奉公人同罪、

但、給金相濟候共、請人過料、奉公人手錠、

同

一取逃引負致候者、請人へ引渡、請人へ可相濟証文取置候上、奉公人致欠落(三)おゐてハ、取逃引負金共受人へ濟方可申付、但、引請之証文無之ハ、(欠落)尋計(可)申付、

享保四極メ

一欠落奉公人、請人へ三十日限尋申付、三切日延之上、不尋出ハ過料、

寛保元極メ

但、致取逃候者ハ、六切日延尋^(可)申付、

一取逃之品於売払は、買主^(事)を為戻可申付、

但、金子坏遣捨候事分明ニ候ハ、捨リニ可致事、

寛保四

一取逃之儀乍存、隠置候ハ、請人入主、江戸十里四方追

放、

一奉公人給金、受人取替相済候後、下請へ懸り候節ハ、廿

日限済方可申付、

但、奉公人、^(立)請人方へ引取置候上、致欠落候ハ、

請人方ニ罷有候内之雑用共ニ、当宿へ済方可申付候、

尤慥成証文取、差置候ハ、其下受へ可申付、欠落者

引戻度旨、請人願候ハ、引返させ可申付事、^(候)

享保六

一武士方町方共、欠落一通り^(之)者を尋出し、於召捕ハ請

人え相渡、心次第申付、主人請取度旨願出候ハ、主人

へ可渡、

但、致欠落、三日之内他所ニて悪事致候ハ、主人方

え引渡、欠落ニは立申間敷事、

四十五 奉公人宿請之事

同三年^(寛保元極)

一人宿之外素人宿^(之)分は、親類并同国之好身^(三)候ハ、

十人迄は可為請判候、尤十人余ハ過料可申付、

同六年

一奉公人請人店請無之出入ハ、家主引受相済、当人店立於

願出ハ、当人ハ門前払申付、追て住所見届ケて、家主願

出候節、身代限り可申付、

同元年極メ

一自分之名を替、奉公人^(之)請ニ立候者、江戸十里四方追

放、

但、奉公人と馴合、判賃之外ニ給金之内をも配分取、

為致欠落候ハ、死罪可申付事、

同

一人之仕業と相見へ、寄子之変死を不存分^(ニ)致候者、所

私、

但、人之仕業と不相見、寄子之変死致し候を、不訴出

分ハ、叱り、

従前^メ例

一寄子致欠落參候儀存候得共、盗人ト不存致宿、雜物質置

候致世話遣、配分ハ不取者ハ、江戸十里四方追放、

一取逃(之)雜物を預り置、致配分又は礼金等取、当人を隠

置(候)請人人主、死罪、

延保元(延享二)

一奉公人と馴合、欠落致させ候請人、重き追放、

但、式度以上ハ、死罪、

寛保元

一寄子之内欠落及数度、不尋出ハ、請人江戸払、

従前々例

追加、組合人宿寄子之内を、自分請ニ立置候奉公人致

欠落、主人今断在之、奉行所ニて給金濟方申付候処、

其人宿致欠落候(ハ、)、人宿之尋ハ家主え申付、於不

尋出ハ過料、

一組合人宿ニて無之、好身之者ニ付、人主印形ハ有来之判

を用ひ、自分請ニ立、出し置候奉公人欠落致候処、主人

方へハ(不相返、又候請ニ立、外え奉公ニ於出スニハ、給

金為相濟候て)、請人、闕所江戸払、奉公人同罪、

但、給金濟候共、受人過料、奉公人手錠、

四十六 欠落奉公人御仕置之事

寛保三
延保五(延享元) 極

一手元之品風与取逃、金拾両以上、雜物代積り十両位分以

上ハ、死罪、十両以下、雜物同、入墨敲、

但、先入牢申付、取逃之品於償ハ、^(捲)壹両以上以下共

ニ、主人願候ハ、助命申付、江戸ニ不罷在候様可申渡

事、

享保廿一極
延享元 極メ

一使ニ為持遣候品取逃、金壹両分以上、雜物同代金積、死

罪、

但、壹両以下ハ雜物共ニ、入墨敲、先入牢申付、取逃

之(品)積り候(ニ)おゐてハ、壹両以上以下共ニ、主人

願候ハ、願之通助命申付、江戸ニ不罷在候様可申渡事、

従前々例

一巧候儀も無之、輕取逃致欠落候者、敲、

一給金請取、主人方へ不引越者、敲、

享保六極

一引負致候者、一向於弁金無之ハ、先入牢申付、金高ニ

応、五十敲百敲、

但、当人并親類之身上ニ応し、引負金高三分一或は五

分一又は十分一も相済候ハ、当人出牢之上、追て身

上持次第、幾度も主人方ハ懸り候様可申付、

從前々例

一請合（人）も無之欠落者を囲置候もの、過料、

寛保元

一欠落者之闕所ニ可成（家）屋敷、於隱置ハ、名主役儀取

上、過料五貫文、家主重過料、五人組過料、

從前々例

一度々欠落致候者、重敲、

同

一主人之金子持出、博奕致候者、重敲、

寛保四

一夫致家出、行衛不知者之妻、外え縁付度旨、於（願）出候

（ハ）、家出致候月々十ヶ月過候ハ、可縁付旨申渡ス、

四十七 捨子之事

寛保二極メ（從前々之例）

一金子を付、貰候子、又捨候者、引廻獄門、

但、切殺シメ殺候ニおゐてハ、引廻磔、

（寛保二極）

一捨子を隣町へ又捨候儀、頭候おゐてハ、家主ハ過料、五

人組同断、名主江戸払、

但、吟味之上、名主五人組家主、不存ニ無紛ハ無構、

四十八 養娘遊女奉公ニ遣候者（之事）

享保十八極メ

一輕（キ）者養娘遊女ニ出し候を、実方ハ訴出候共、無取上、

但、卑賤之者ハ養子ニ遣候ハ、実方ハ其心得ニて

可在之事ニ候間、証文有之候共（無）取上、然共、養娘

格別（之）難儀および候を養父取計候ハ、可遂吟味

候、実子ニても親之仕方外之儀在之候ハ、吟味之

上、相応之仕置可申付、

一極貧（之者）、其子を同輩之者ハ養子ニ遣、売も同前ニ候

故、養子又外え売候共、人を勾引売候トハ格別之事、

四十九 隠売女（之事）

享保七
延享三極

一隠売女致候者、身上相応過料之上百日手鎖ニて、所え預

ケ、隔日封印改、

元文五・延享二極

一踊子抱置、売女為致候も同斷、

享保八極

但、何も三年之内、新吉原へとらせ遣候、死骸ハ取

捨申間敷候、

享保七

一主人人主、身上(ニ)応し家財三分一取上候程過料、

一家主、身上ニ応し過料之上百日手錠、隔日封印改、

但、家主建置候家藏在之候ハ、店賃為納可申候、

一五人組過料、名主重過料、地主五ケ年中家屋敷取上、地

代店賃為納、五ケ年過候ハ、元地主え可取返下、

(但)、外ニ罷出候共右同斷取計、又は売女置候ハ、

幾重も同様申付、明地ニは申付間敷候、

一御扶持人御用達町人、拝領屋敷、同斷、

但、同斷、

一寺社門前町屋、同地借共、同斷、

但、寺院神主ハ、寺社奉行にて叱り置、自分にて遠慮

不出者^(致)ハ、死罪、但、飢渴之者夫婦申合、売女致させ

候までにて、盜等之惡事無之ハ、不及糺明、

享保二

一踊子呼出、売女致候料理茶屋、所払、家主地主過料、

但、地主他ニ罷有候ハ、叱り、名主五人組無構、

同六年極

一隱(売)女を誘引出候男女共、無構、

但、女は誘引出候者之方へ成共、又ハ外へ参り候共、

心次第、

五十 密通(之事)

一密通致候妻、同男、死罪、

一密通之男女共、夫殺候時、密通無紛ハ無構、

一密夫を殺、女存命(ニ)候ハ、死罪、

但、若密夫逃去候ハ、妻ハ夫之心次第申付、

一女同心無之、密通申懸、或ハ家内へ忍入男を夫殺候時、

不儀申懸候証拠、於不明は、中追放、

一致密通、実之夫を殺候女、引廻磔、

但、実之夫を殺候様ニ勸候て又ハ手伝致候男、獄門、

一致密夫、^(通)実之夫ニ疵付候者、獄門、

一主人之妻と密通之男、引廻獄門、女死罪、同手引致候

者、死罪、

一 夫在之女、得心無之ニ押て不儀致候者、死罪、但し大勢

ニて不儀致候ハ、頭取獄門、同類重追放、

一 密通御仕置、妻妾無差別、

一 養母養娘并姑と密通之男女共、獄門、

一 姉妹伯母姪と密通致候者、男女共ニ遠国非人之下、

一 離別状不遣、後妻を呼候者、所払、

但、利欲之筋ニ抱候ハ、家財取上候て江戸払、

一 離別状不取、他え嫁候女、髮切候て親類え相帰ス、

（但、右取持候者、過料、）

一 離別状無之女、他え縁付候ハ、親元過料、

但、呼取候男、過料、

一 主人之娘と致密通候者、中追放、

但、娘ハ手錠懸ケ、親元え渡ス、

一 主人之娘と密通之手引、所払、

一 幼少之者（え）致不儀、怪我させ候者、遠島、

一 女得心無之、押て不儀候者、重キ追放、

一 夫無之女え致密通、誘引出候者、女為帰、男手錠、

一下女下男之密通、主人え引渡、

一 他之家来又は町人等、下女（と）密通、忍入候者、男江戸払、女主人心次第、

一 夫在之女え艶書度々取替候得共、密会不致儀紛無のおゐてハ、男女とも中追放、

一 男女申合、不儀ニて相對死候ハ、死骸取捨、為吊申間敷事、但、一方存命候ハ、下手人、

一 双方存命（ニ）候ハ、三日晒、非人之下、

一 主人と下女、相對死損、主人存命（ニ）候ハ、非人の手下、

五十一 女犯之僧御仕置之事

元文四極

一 寺持之僧 遠島

同

一 所家僧之類、晒之上、本寺触頭へ渡、寺法ニ可為致候、

同

一 密夫之僧、寺持所家とも、獄門、

五十二 三鳥派不受不施御仕置(之事)

従前^三例

一法を勸候者、可致改宗由申候共、遠島、

但、勸候者俗人ニ候ハ、其子共改宗可致(旨)於申

ハ、所払、妻ハ無構、

延享元

一法を受、其上勸候者(之)宿、遠島、

但、改宗致候ハ、重追放、

同

一勸候者之住所致世話候者、重追放、

但、改宗致候ハ、田畑取上所払、

同

一法を受候者致改宗、自今宗旨持間敷由、於致証文は、無

構、

(但、改宗致間敷旨申候ハ、遠島)

同

一勸候者を村方ニ差置候名主組頭、法を受、帰依不致

共、役儀取上、

但、法を受、可致改宗旨申候ハ、名主追放、組頭田

畑取上所払、

同

一同法を勸候者ハ、不致住居候とも、大勢村方之者致帰依

候を於不存ハ、伝法不受不致帰依候とも、名主ハ重過

料、組頭輕過料、但、同断、

五十三 新規神仏之事

寛保二極

一新き義仕出候社人出家、品輕キハ逼塞、重ハ所払、

(同)

一奇怪申触、人集致候俗人、過料、宿、所払、^(起)発記申触頭

取、江戸払、世話役所払、

但、在町人集候(所)名主、重過料、組頭五人組、過

料、三十日以上捨置候ハ、在町とも役儀取上、

五十四 変死内証葬(之事)

従前^三例

一变死之者、内証ニて葬候寺院、五十日逼塞、

五十五 三笠博奕取退無尽(之事)

一三笠点者金元宿、博奕筒取宿、無尽頭取宿、遠島、

但、家主、身上(二)応し、過料之上百日手錠、

延享元

一句拾ひ・札売、家財取上、非人手下、

右三品(二)抱り候者、家財家蔵取上候程(之)過料、

享保十一極

但、家蔵無之者、五貫文式貫文過料、

同

一武家召仕、博奕打候者、遠島、

従前々例

一悪簗拵候者、入墨重敲、

同

一手目博奕打 遠島

享保十一・延享二極

一三笠点者、博奕頭取、無尽頭取、地主屋敷取上、

享保十五・十六極

但、五ヶ年過、元地主え返被下候、外ニて致候者、地

主は三ヶ年過候て被下、

同二十年極

但、其日稼之者、商先ニて当分之博奕筒取致候類、叱

り、所之者ハ不及咎、

(享保元・同十二・延享二極)

右三品、宿両隣五人組、身上(二)応し、過料、

元文元極

但、在方ハ、組頭五人組、過料、

延享元

同名主ハ、在町共、五貫文過料、

同町内家主、過料参貫文ツ、

享保十一・延享元極

向側小間ニ応し過料、在方村方ニ応し(過料)、

享保十一極

右之頭取訴出候者、同類成共重キ科を免し、御褒美銀貳

拾枚被下、組、句拾ひ・札売訴出候者、手筋ニて、右之

者捕候ハ、金五両三兩之御褒美被下候、

従前々例

一仲ヶ間金子合力之為と申、博奕催、合力金之内、内証ニ

て自分も配分取候者、遠島、

但、博奕催し候世話不致候とも、合力貫候者、中追

放、

同

一三笠附・博奕・取退無尽、町内名主五人組訴出候ハ、

当人并家主ハ御仕置申付、地主ハ地面不及取上、急度叱

り、宿之両隣五人組一町之者、不及咎メ、

但、在方も同断、

享保十六極

右之品、御仕置遠島、五年過、御赦之儀相伺可申事、

延享二

但、所払以上之御仕置も博奕一通(ニ)候ハ、右同様
可伺、

延享二極

一廻り筒ニて博奕打候者、過料、

但、三度以上は、中追放、

享保十六極

一輕キ懸ケ宝引よみかるた打候者、三十日手錠、宿、過料

三貫文、

但、五拾文以上之掛致候ハ、博奕同前之御仕置、

五十六 盗人御仕置之事

従前々例

一人を殺、盗致候者、引廻獄門、

同

一盗三人、刃物ニて人ニ疵付候者、同断、

但、忍人無之共、可致盗と疵付候者、死罪、

同

一盗三人、刃物ニて無之、外之品ニても、人ニ疵付候者、

(死罪)
同断、

同

一致徒党、可致盗と人家(ニ)押込候頭取、獄門、同類、死
罪、

享保五

一家内ニ忍人或は土藏坏破候類、金子雜物多少ニ不依、死

罪、

但、昼夜(ニ)不限、戸明有之所、又ハ家内(ニ)人無之

故、手元ニ在之輕キ品盗取候類、入墨之上重キ敲、

従前々例

一盗人之手引、死罪、

(同)

(一) 追剥、獄門、

(同)

(一) 追落、死罪、

(元文五極)

(一) 片輪者所持之品盗取候者、死罪、

寛保五

一手元ニ在之品、風与盜取、金拾両以上、雜物代同、死罪、

但、拾両以下は雜物共、入墨敲、

元文五

一惡党者と乍存致宿、盜物売払（遣）又は質物ニ置遣、配分取候者、死罪、

寛保二極

一惡党（者）と乍存、致宿又は五七日逗留為致候者、重追放、

但、惡党磔ニ被行候ハ、宿、死罪、

同

一家藏へ忍入、盜人ニ被頼、盜物持運、配分取候者、敲之

上（輕）追放、

但、配分不取は、所払、

（同）

一御林竹木申合、盜伐り候者、頭取重キ追放、頭取ニ准し候者、中追放、同類過料、

從前々例

一余中小盜、敲、

但、一旦敲ニ成候上、輕盜致候共、入墨、（其）之上盜

致候ハ、死罪、

同

一橋之高欄又は武士屋敷之鉄物取候者、敲、

同

一輕盜致候者も、敲、同宿ハ、所払、

同

一湯屋ニて着類（着）替候者、敲、

同

一隱物と乍存、又売買致候者、入墨敲、

但、年來抱候ハ、死罪、

同

一盜物と乍存、致世話配分取候者、敲、同存預り候者も、

敲、

但、不存、出所不糺質ニ置遣候者、過料、

同

一片輪者を殺、所持之品盜取候者、引廻獄門、

同

一家藏え忍入、旧惡五度以上、盜取品無之共、引廻獄門、

寛保四極

一盜人を捕、雜物取戻、内証ニて逃遣候当人・名主、叱り、
但、死罪ニ可成盜人、逃（し）候ハ、名主五人組、輕

過料、

同元

一 盜人を捕、吟味之上、他所ニて盜候雜物金子、放所持^(於)は、遠国ニ候共、其所之支配地頭ニ申達、被盜候当人召呼、其品可渡事、

但、少分之品ニて当人請取參候儀、遠国之由ニて難儀^(ニ付)之由、捨り致度由申候ハ、其分^(ニ)可致候、若又右之雜物、其地ニ親類由緒之者在之、名代ニて請取度由相願候ハ、(願之通)可申付、

從前^三例

一金子入書狀請取、道中ニて切解、遣捨候飛脚、多少^(ニ)不依、引廻死罪、

享保六七極

一 都て盜物之品は、被盜候者へ相返可申候、金子遣捨候ハ、可為損失、勿論盜物取戻候共、無差別右之通御仕置可申付事、

五十七 盜物質買取取候者御仕置之事

享保六極
元文五極

一 盜物と不存、証人を取、如通例之質ニ取、吟味之上、盜

物之儀不存^ニ決候ハ、証人ニ元金為償、質物取返し、被盜候者へ可相渡事、

但、証人も御仕置ニ成、若金子可差出掛無之候ハ、質や可為致損金、尤証人無之買取候ハ、不念候間、質や可為損金、其上咎可申付事、

一^(マ)右被盜候品少分之由ニて、当人請取參候儀、遠国故難儀之由申候ハ、捨^ニ可致、又其地親類由緒之者在之、名代ニて請取度由願候ハ、願之通可申付、

同

一 盜物と不存、反物其外諸品買取候ハ、其品^(取)其戻シ、被盜候者へ相返、代金ハ損金可申付候、

但、被盜候色品有合不知、代金致所持候ハ、取上、被盜候者へ相渡可申候、盜物買主^(所)分取返候上、代金盜人致所持候ハ、公儀^(先)取上、

同

一 盜物と不存買取、売払候節ハ、先^(先)段^(先)(相)札、代金ヲ以買取させ、被盜候者^(え)為返、盜人分初発買取候者之損金可申付事、

但、売出^(先)不知候ハ、初発買取候者、被盜候者^(え)代金

為償可申付、

（同）

一 盜物紛失之節、隱置候者、家財取上、江戸払、

從前々例

一 耆人兩判、或は証人無之質物取候者、其品取上、過料、

但、町触之節於訴出ハ、品取上、不及咎、

同

一 組合定有之商物、組合ニ不入、商売致候者、品取上、過料、

五十八 惡党者訴人之事

（元文三極）

一 惡党者捕出候歟又ハ訴出候時、右訴出候者ニも惡事有之

由、惡党申懸候共、猥ニ相糺間敷候、若本人ハ重（キ）惡

事証拠慥（ニ）於申は、可致詮議事、

但、惣て罪科之者、於訴出ハ、同類たりとも其科被免候間、其趣を以可致作略事、

五十九 倒死并捨物手負病人等在之を不訴出者御仕置

之事

寛保二・延享元極々

一 倒死并捨物有之を押隱、於不訴出ハ、店借・地借・家

（主）も・名主、過料五貫文、五人組三貫文、但、地主・家

主・名主・五人組、於不存は無構、尤在町共ニ、

同

一 変死并手負病人相隱置、不訴出、隣町へ於（送）遣ハ、店

借・地借・家主共、過料五貫文、（五人組三貫文、名主

役儀取上、過料五貫文、）

六十 拾ひ置物取計之事

享保六

一 拾ひ物之儀、訴出候ハ、三日晒、主出候ハ、金子ハ落

主と拾ひ候者、半分宛為取可申候、反物類候ハ、不殘

本主へ相返し、相応之礼可致事、

但、落主不相知候ハ、六ヶ月見合、弥主無之候

ハ、拾ひ置候者へ不殘為取可申候事、

從前々例

一 拾ひ物致シ不訴出、重て於頭ニは、過料、

六十一 人勾引御仕置之事

一人勾引候者 死罪

但、勾引と馴合、分前取候者、重追放、

六十二 謀書謀判致候者御仕置之事

寛保二極

一 謀書又ハ謀判致候者、御仕置引廻獄門、加判人死罪、

同

一 謀書と乍存、任頼ニ認遣候者、重追放、

六十三 火札張捨文致候者御仕置之事

従前々例

一 遺恨を以可火付と張札、又ハ捨文致候者、死罪、

同

一 同人之惡事等偽、死罪(二)可及程之義を認、張札又ハ捨

文致候者、中追放、

六十四 巧事語り重キねたり事致候者(之事)

寛保二

一 対公儀候事か又ハ兼て巧候事か、或ハ人(を)誘引申合取

候ハ、財物金壹両以上、死罪、

但、当座之語り(は)、手元之品盜取候御仕置同斷、

享保廿

一 巧を以人を打擲致、同類之内の取扱、物をねたり取候

者、人に疵付候ハ、獄門、同類ハ、中追放、

但、品不取候共、疵付候ハ、死罪、

一 惣て催促ニ逢、或ハ預物等届来候人を、疵付又ハ打擲

(致)候者、中追放、

但し刃(物)にて疵付候ハ、死罪

同

一 巧申掛ケ、度々金子等語取候者、金高雜物多少ニ不依、

獄門、

寛保二極

但、品不取共、度々語り取候者、或ハ巧候品重キハ、

死罪、

同二年極

一 重御役人之家来と偽り語致候者、死罪、

延享元

一 願不請儀(を)叶候鉢(二)申成、会所を建、懸札等出し候

ハ、家財取上、所払、

但、当人居町村ニ会所建、掛札致候ハ、名主、過料

五貫文、家主五人組、過料三貫文、他所ニて会所建、

懸札致候ハ、名主五人組不存おひてハ、無構、

従前々例

一家主并五人組を拵、訴出者、敲、

但、似セ家主五人組ニ成り候者、同罪、

同

一売人買人を拵、似セ物商候者、入墨之上中追放、

六十五 申掛致候者御仕置之事

従前々例

延享元

一主親(え)重悪事ニ偽り申掛ケ、訴人之者、磔、

右 公儀(え)抱(り)候(き)品ハ、可懸ケ詮議之、若訴人

之申所偽り無之おひてハ、本人之御仕置相当(一)等輕、

訴者(ハ)本人(ハ)尚又輕ク可相回事、

但、右之外私事ニ訴出候とも、不可取上事、

一主親非道之品有之、難儀之由(申)、有免之事願出候

ハ、名主五人組并親類之者呼出、宜取計候様可申付事、

従前々例

一御褒美可取巧ニて、偽訴申出候者、敲之上中追放、

同

一人殺候由申懸候者、一通り之申懸(ニ)候ハ、重追放、

深キ事在之は、遠島、猶重キハ、死罪、

六十六 似セ金銀毒藥并似セ物御仕置之事

同

一金銀似セ拵候者 引廻磔

寛保二極

一毒藥売候者 引廻獄門

従前々例

一似藥種売 引廻死罪

同

一似秤拵候者 引廻獄門

但、入目違於無之は、中追放、

(同)

(一)似桤拵候者 右同断

但、入目違於無之ハ、中追放、

同

一似朱墨拵候者、家財取上所払、

六十七 出火咎之事

一町在寺社門前地共、

一平日出火、小間拾間以上焼失ニ候ハ、火元^{三十日押込}、

享保六・寛保三極

但、小間拾間以下ハ、不及咎、寺社ノ火元ニて類焼有之候ハ、其寺^社七日之遠慮

寛保三

一御成日朝ノ還御迄、御留主中、小間十間以上且平日三

町以上焼失、

享保四

火元五十日手錠、

寛保二

同地主家主、三十日押込、同月行事、同断、同五人組、

二十日押込、

但、風之上^風(風)脇左右式町ツ、六町之月行事、

但、之上風脇之者共、不慎ニて不働候ハ、相応之咎

可申付、格別精出候ハ、誉申可、還御後十間以下ハ、

不及咎、

享^寛保二極

一寺社門前ノ出火之節、平日小間拾間以上之焼失ハ、其寺

社不及咎、三町以上之焼失ハ、寺社十日之遠慮、御成之節は還御迄之内、小間拾間以上之焼失^(平)ハ、三十日三町以上之通可申付、門前之者、咎ハ町方同断、

六十八 火付御仕置之事

従前々例

一火を付候者、或は人を頼為火付候者 火罪

但、燃立不申候ハ、引廻之上死罪、捨札三十日、

享保二

一人ニ被頼、火をつけ候者 死罪

同八年極

右物取候て火を付候者、日本橋、両国^(三)(橋)、四ッ谷御門

外、赤坂御門外、昌平橋御門外、火を付候処・居町、銘

々科書捨札建可申候、

享保九

但、物取無之火付、火を付候処・居町引廻之上、火

罪、不及捨札、

右火罪御仕置、都て晒^(三)不及事、

同七極

一火附捕候者、人数不依多少、御褒美銀三十枚、

延享元極

一火付候者、年を越於顯は 死罪

同切懸打懸、死罪、

但、当座之儀は遠島、品^(五)にて重追放、

従前々例

六十九 人殺并疵付候者御仕置之事^(等)

従前々例

一主殺、二日晒一日引廻、鋸挽之上磔、同(為)手負候者、

晒之上磔、

寛保三

同打かけ切懸、死罪、

同二・延享元

一舅伯父伯母兄弟姉殺候者、引廻獄門、

従前々例

同手負せ候者、死罪、

寛保元

一古主を殺候者、晒之上磔、手負せ候ハ、右同斷、切掛

(打掛)何(れ)も、死罪、

同

一地主を殺候家主、引廻獄門、

同

同手疵為負候家主、死罪、

同

元地主殺候家主、引廻死罪、

同手負せ候家主、遠島、

同

一主人之親類殺候者、引廻獄門、

寛保三

同手負せ候者、引廻死罪、

享保二

一非分も無之実子養子殺候者、短慮ニて風与殺候ハ、遠

島、

但、利得^(二)抱候ハ、死罪、

同

一弟妹甥姪殺候者、遠島、但、利得^(二)抱候ハ、死罪、

従前々例

一師匠を殺候者、磔、同手負せ候者、死罪、

同

一支配を請候名主(を)殺候者、引廻獄門、同手負せ候

ハ、死罪、

同

一毒飼致、人を殺候者、獄門、

但、毒飼致候得共、於不死は、遠島、

同

一人を殺候者 下手人

寛保二

一同手引致候者 遠島

但、殺候当人、致欠落不出ハ、下手人、

元文五

一差図(を)請、人を殺候者 遠島

一自分之悪事可顯をいとひ、其人を可致殺害として疵付、

或は詮議したる人に遺恨を含、為手負候者、死罪、又切

殺候者、獄門、

従前々例

一大勢ニて人を打殺候時、初発ニ打懸候者、下手人、同手

伝致候者、遠島、

但、不致手伝共、荷担人、中追放、或は兼て可殺と申

合も無之、同輩之者闘論難見捨、致助力候ハ、中追

放、

同

一相手ハ不法之儀を仕懸、無是非刃傷(二)及び、(人)を殺

候者、遠島、

寛保元極

一辻切致候者 引廻死罪

享保六

一渡船ニ乗沈、溺死在之候ハ、其船之水主、死罪、

同十三極

一車引懸ケ、人殺候ハ、殺候方を引候者、死罪、

寛保三

但、人ニ不当方を引候者、遠島、荷主重過料、家主過

料、

同

一同怪我致させ候ハ、其方之者、遠島、

但、不当方之者、中追放、荷主家主、前同断、

寛保元

一牛馬を引懸、人を殺候者、死罪、

同為致怪我候者、中追放、

但、渡世難成程之怪我(三)候ハ、遠島、

延享二

一人に疵付候者、療治代、疵付之不依多少、町人百姓は銀

壹枚、

従前々例

一 離別之妻ニ疵付候者、入墨之上、遠国非人之下、

寛保三

一同宿牀之者又ハ僧、人を殺、或ハ疵付候者ハ、科俗人ニ替り無之、

但、寺持ハ一等重可伺、

従前々例

一 足輕牀之者、輕^(き)町人百姓之身分として法外雜言等不^(正)負之仕形、不得心事切殺候者、吟味於無紛ハ、無構、

寛保四

一 悴、人ニ被殺候を、任^(極)持、内証ニて取扱事済候親、所払、

同

一 邪曲を以、親類縁者、人を殺候儀、内証ニて事済候者、過料、

但、被殺候方之親類も同断、

同追加

一同人殺を所ニ扱候者有之、内証ニて事済、殺候者立退候と乍存、不訴出ハ、名主中追放、組頭所払、

同追加

一家焼失之時、親焼死候を捨置、逃出候者、死罪、

但、伯父伯母兄弟姉焼殺候ハ、中追放、

同追加

一 親を被殺、死骸見届候得共、物人をいとひ、村役人等相談之上、不訴出押隠し、於事頭ニ、当人遠島、(名主)輕追放、組頭所払、

寛保三

一 当座之口論之上、人を殺、荷担致候者、重過料、

七十 下手人(三)不成御仕置之事

享保二十

一 相手理不尽^(之)仕方ニて、不得心事切殺、相手方親類役人等、被殺候者平日不法ニて申分無之、下手人(御免)願に申上、於無紛ハ、追放、

但、武士方奉公人ハ、被殺候者之其主人ハ願無之候ハ、假令親類等願候共、差免申間敷候事、

一 疵付手負、疵人元及死候程之疵ニて無之、平癒之内余病差免、死候ハ、吟味之上於無紛ハ、相手不及下手人ニ候事、

七十一 怪我ニて果候相手御仕置之事

寛保三

一弓鉄炮誤り人殺、吟味無紛之、怪我人之親類為念相尋候上ニて、遠島、

但、相果候ハ、存命之内、相手御仕置御免願置候ハ、一等輕(く)可申付、

寛保三
延享三極

一定りたる矢場ニて、外々不慮ニ参り懸り、若矢玉ニ中り死候共、不及咎、三十日遠慮可申付、

(一怪我ニて風与疵付、相果、吟味於紛無之は、親類相尋候上、中追放、)

但、吟味之上、不念有之ハ、一等重ク可申付、

七十二 婚禮石打候者御仕置之事

延享元極

一石打狼藉、頭取、百日手錠、同類、五十日手錠、

七十三 あはれ者御仕置之事

元文五

一御城内ニて口論之上、拾人以上敲合ねち合候もの、双方当人、重追放、荷担人、敲之上江戸払、

従前、例

一町所ニてあはれさわかし候者、敲之上所払、

但、所(ゝ)ニてあはれ候者、敲之上中追放、

寛保三極

一遺恨を以十人以上致徒党、狼藉之上人(ヲ)殺、頭取獄門、但、疵付候ニおゐてハ、頭取死罪、尤人殺并疵付と

も、荷担人中追放、

同追加

一致狼藉、諸道具等損さし候頭取、重追放、荷担人、所

払、

七十四 酒狂人御仕置之事

享保六

一酒狂ニて人を殺候者、下手人、

但、被殺候者(之)主人并親類等、下手人御免願出候

共、取上間敷事、

同七

一酒狂ニて人に為手負候ハ、疵付候者平癒次第、療治代
為出可申候、

但、疵付候者、奉公人は主人へ預ケ可申候、其外牢
舎、手疵輕候ハ、預可申候、療治代難出者は、諸道
具取上相渡、諸道具無之者は所払、

同

一同諸道具損さし候者、道具償可申候、(償)不成者、所払、

同

一酒狂ニて人を打擲致候者、療治代難差出者、諸道具取
上、打擲ニ逢候者へ可為取、若諸道具も無之、償難成身
上之者、所払、

同

一同相手無之ニあはれ候者、主人其外可相渡方へ可引渡、

疵付者、公儀御仕置ニ可成筋之者ハ格別、左も無之者
ハ、御構無之旨申聞、早速引渡可申候、

元文五極

一酒狂ニて相手無之ニあはれ、自分と疵付候義、并諸道具
等損さし候事も無之もの、立帰度由申候ハ、留置申聞
敷候、

但、奉行所へ訴出候以後ニても、右之通為致可申候事、

七十五 療治代之事

享保七

一療治代、疵付不依多少、中小姓鉢ハ、銀貳枚、徒士、金
老兩、足輕中間百姓町人、銀壹枚、

但、療治代難出者ハ、刀脇差可為渡、輕(キ)在町之
者、右ニ准、

七十六 乱心ニて人殺候事^(之)

一乱心ニて可人殺候共、可為下手人候、然共、乱心之証拠^(ママ)

慥ニ有之候上、被殺候者(之)主人并親類等、下手人御免

(之)願於申出ハ、遂詮議可伺事、

享保六極

但、主親を殺たりといふ共、氣違ニ無紛は、死罪、若
自滅致候ハ、死骸取捨可申付事、

同十九年極

一乱心ニて火を付候者、乱氣証拠不(分)明ニおゐてハ、死
罪、乱心於無紛ハ押込置候様、親類共へ可申付事、

同

一乱心ニて、其人ヲ至て輕き者を殺候ハ、下手人ニ不及、

寛保二

但、慮外者を切殺候時、切捨(ニ)成候程之高下と可心得事、

七十七 十五才以下之者御仕置之事

寛保元

一子心ニて無弁、人を殺候ハ、十五才迄親類(エ)預ケ置、遠島、

同

一同火を付候者も、右同断、

同

一同盜致候ハ、大人ハ御仕置一等輕(ク)可申付、

追加同三

一十五才以下之無宿者、途中其外ニて小盜於致は、非人手下、

七十八 科人為立退并住所隠候者之事

元文五

一火付又は盜賊之上ニて、人殺候者、

同

一致徒党、人家え押込候類、又は追剥之類、

右之類、科人同類ニては無之候得共、其者ニ被頼、或は住所を隠、又は為立退候者、死罪、

同

一喧嘩口論、当座之儀ニて人を殺候者、右科人之同類ニは無之、義理を以被頼、住所を隠し或は為立退候分は、急度阿り可申付事、

七十九 人相書を以可尋者之事

寛保二

一公儀^エ対(シ)重謀計・関所破・主殺・親殺、右人相書を以、御尋之者を乍存、囲置又ハ召仕等ニ致シ、訴不出者、惣て獄門、

但、乍存請(ニ)立候者、同罪、吟味之上不存ニ決候ハ、主人請人共過料、

八十 科人欠落尋之事

同二年極

一主人を家来ニ、親を子ニ、兄を弟ニ、伯父を甥(ニ)、師

匠を弟子ニ、

右之類え尋申付間敷事、

一事を巧、人を殺候者、又は闇打、或は人家え忍入、人を

殺、致欠落候者、先近き親類之内一人入牢申付、尋之儀

は三ヶ月申付、不出ハ又百日尋申付、弥尋於不出は、出

牢中追放、残(リ)尋申付置候者共、過料之上永尋可申

付、

寛保二極

一喧嘩口論にて人を殺、致欠落候者、六(ケ)月尋申付、不

(尋)出は、一件之者御仕置、尋申付候者ハ、過料之上永

尋可申付候事、

八十一 拷問可申付品之事

享保七

一人殺 火付 盜賊 関所破 謀書 謀判

右之惡事致候証拠二候得共、不致白状、并同類在之及

白状候得共、当人不致白状候者、拷問可申付候、

一詮義之内不決、外ニ惡事分明ニ相知、其科にて死罪(ニ)

可被行者之事、

右之外ニも拷問申付可然品も有之候ハ、評議之上可申付候事、

但、拷問口問之節、立会之者、差口吟味之様子申候

事、得と承届ケ候様ニ可申付事、

八十二 遠島再犯御仕置之事

従前々例

一流人、島にて死罪已上之致惡事候ハ、於其島、死罪、

但、於島内ニ、ねたりあはれ候ハ、島替、

寛保二

一島を逃去候者、於其島、死罪、

八十三 牢逃手錠外シ立帰候者之事

同

一牢拔出候者、本罪より一等重ク可申付、

但、牢番人、中追放、

同

一牢屋敷焼失之節、放遣シ立帰候者、一等輕(ク)可申付、

但、放遣不立帰ハ、本罪相当御仕置可申付、

享(寛)保三・延享元

一手錠外シ、過怠手錠之内ハ定之日数一十倍、吟味之内懸置候者ニ候ハ、百日手錠、

同

一手錠外シ欠落致候ハ、本罪ハ一等重ク可申付、

但シ外シ遣候者過料、欠落致候ハ、輕追放、預ケ候名主、過料、欠落尋不出は、家主、重過料、

寛保二

一宿預ケ候者、致欠落候ハ、本罪ハ一等重ク可申付、

從前例

一御構(之)地ニ致徘徊候者、前之御仕置ハ一等重(ク)可申

付、

但シ追放所払等申付候処、直ニ居町居村へ立帰候ハ、御仕置不相用ニ付、入墨之上最前御仕置ハ一等

重(ク)可申付、

延享二

一御構有之者隱置候者、追放者を隱置候ハ、江戸払、江

戸払(を)隱置候ハ、所払、

但、御構之地(ニ)致徘徊候も、同断、

一追放者立歸りあはれ候ハ、死罪、

從前例

一追放ニ成候儀不存、或は身元不札、請人(ニ)立候者、過料、

同

一同請人方不札して、店ニ差置候家主、過料、

寛保三

一宿預ケ(ニ)成候上、難立願、訴訟又は追訴等可致ため立退、外へ宿を替候者、元宿へ引戻し手錠、

八十四 辻番御仕置(之事)

延享元

一廻り場之内ニて、金銀又ハ雜物等壹両以上之物拾ひ、不

訴出隱置候辻番人、引廻之上死罪、

但、壹両以下は、入墨之上敲、

寛保二極

一廻り場之内ニ、人を(切)殺或は手負候ヲ見逃し致候て、

相手を不置置番人、中追放、

享保八

一同場所之内、捨子又は重病人等、外へ捨遣候番人、死罪、

但、倒死隠、取捨候ハ、江戸払、

寛保二

一 辻番（所）ニテ博奕いたし候番人、遠島、

八十五 重科人死骸塩詰之事

享保六

一 主殺 親殺 関所破 重謀計

右之外、死骸塩詰之上御仕置、此外ハ不及塩詰事、

八十六 溜預ケ之事

享保二極
寛保二極

一 牢舎申付、最初溜え遣間敷候、入牢之上重病、御仕置伺

置候ハ、溜ニ遣し可申候、

但、逆罪之者、病氣ニても溜へ遣間敷事、

八十七 無宿片付之事

従前々例

一 可渡者在之ハ呼出可相渡、引取人無之ハ、門前払、

但、病人ハ快氣迄（溜え）遣ス、

同

一 遠国行倒ハ溜預、病氣快全之上、万石以上は領主へ相渡

可申、御料并万石以下は、其所（之）親類呼出可相渡候、

但、在所ニテ科有之、欠落并村方親類致久離、好身之

者無之は、門前払、

享保六極
元文三極

一 入墨敲ニ致候無宿、遠国之者ニ候ハ、地頭へ科之様子

申聞、態々領地え不及遣ニ旨申渡引渡、

八十八 縁談之事

一 不縁之妻を理不尽（三）大勢ニテ奪取候当人、死罪、

一 婿養子、不存不埒ニテ差戻候後、外合養子致シ、娘と嫁

合候節、先夫荷担人催シ、娘を捨奪取は、荷担人頭取、

田畑家財取上所払、其外過料、人ニ疵付（不申）、其上養

父方之者詫候ハ、当人重追放、

八十九 質物出入取捌之事

一 八ヶ月（之内）ニ質物受戻シ可申付、八ヶ月過候ハ、流

ニ可申付事、

但シ置主質屋相對ニテ差置候ハ、不及沙汰、

延京(享)元極

一利息相濟候質物、売払(候)由申候ハ、質物為取戻、過

料、

但、品売先不知候ハ、取金一倍之積、代金為相渡

(候て)、過料可申付、

從前、例

一耆人兩判之質物取置、吟味可成品承り、質物相返、預ケ

金証文ニ直(し)、其上質帳不埒ニ付候質や、家財取上江

戸払、

同

一脇差は一尺八寸ニ可限、

九十二 新田(え)無斷(引)移候者之事

同

一新田へ無斷致家作候者、家財取払ハセ、過料、

九十三 關所之地(所)隱候者咎之事

寛保四極
延享二極

一關所可成田畑地面、於隱置は、名主輕追放、与頭所払、

九十 煩旅人宿送致候咎之事

一旅人煩候ニ、医者も不掛、其上宿送致候もの、所払、問

屋役義取上、年寄過料、

但、脇道ニて問屋無之ハ、名主役儀取上、

九十四 御仕置者之悴出家願之事

一御仕置ニ成候者之悴、遠島追放可申付者幼少ニ付、十五

才迄親類へ預置候処、出家願出候ハ、伺之上出家可申

付、

但、出家(ニ)成候上、江戸徘徊不致、住居定、他所へ

參候節ハ奉行所へ相届ケ、勿論御朱印地御由緒地并御

目見(仕候程之)寺院えハ、住職不仕、若不叶訳又は公

儀へ罷出候儀有之ハ、其節奉行所へ可伺旨申渡、右之

同

九十一 帶刀致候百姓町人御仕置之事

一百姓町人、私ニ帶刀致罷有候者、大小取上、輕追放、

段師弟共ニ証文可申付事、

九十五 村方帳面無印村役人咎之事

延京(享)元極

一年貢諸帳面、惣百姓へ不為見、并印形をも於不取置ハ、
名主役儀取上過料、組頭過料、

但、名主与頭、私欲ニおゐてハ、名主、家財取上所
払、組頭、役儀取上過料、

九十六 輕惡事(之)者出牢之事

一手錠・過料・戸メ等可申付輕き惡事、吟味之内入牢六十
日以上(二)候ハ、出牢之節咎可申付処、数日^(日数)入牢ニ
付、令看免候旨申渡、別ニ咎ニ不及、一件(三)抱^(拘)り不致
入牢者ハ相当咎可申付事、

但、所払・役儀取上之類、何ヶ月入牢候共、宥免之不
及沙汰、

九十七 妻を売女ニ出候御仕置之事

延京(享)二極

一商物(を)出し乍致渡世、妻同心せざるニ売女ニ出し候
者、死罪、

但、飢渴之者、夫婦申合売女致させ候迄ニて、盜等之
惡事無之候ハ、糺明ニ不及事、

九十八 追放入墨ニ成候者再致惡事候事

從前(之)例

一御構之地ニ致徘徊候上、惡事致候者、入墨之上惡事候
ハ、死罪、

但、入墨ニ可申付程之惡事ニ無之ハ、前(之)御仕
置(之)一等重(ク)可申付事、

同

一預り置候者を取逃候者、過料、

(但)、尋出し申付、不尋(出)候ハ、同断、

延京(享)二極

一入墨を拔、御構地へ立歸候者、入墨之上前(之)御仕置(之)
一等重(ク)可申付事、

但、入墨以上(三)可申付程之惡事ニ無之ハ、前(之)

(之)御仕置シ一等重(ク)可申付、

同(寛保二年極)

一入墨を拔遣シ候者、敲ギ、

同(享保六年ノ極)

一入墨ニ成候以後、又候盜致候者、死罪、

但、外之惡事致候ハ、重敲、

九十九 私ニ桷秤造相用候者之事

同二ノ極

一桷秤私ニ造候共、輕重大小本様ニ無相違ハ、他之損失無

之故、其咎輕(キ)事、

百 御仕置仕形之事

従前シノ例

一鋸挽 一日引廻、両肩ニ刀目を入、竹鋸ニ血を(付)、側

ニ立置、二日晒シ、挽可申と申者有之ハ、為挽候事、

但、田畑(家)屋敷家財共、闕所、

同

一磔 品川淺草、惡事之在方へ遣候事も有之、尤科書之捨

札建、三日之内、非人番ニ付置候、

但、引廻、又ハ科ニ寄、不及引廻シ、(欠所)右同断、

同

一獄門 引廻之上右所同断、科書捨札番人等、右同断、

但、於牢内、首を刎、尤闕所(右)同断、

同

一火罪 右同断、

但、物取ニ無之ハ不及捨札、闕所(右)同断、

同

一斬罪 右淺草品川両所之内、檢使御徒目付、町与力同

心、首切斬罪、

但、闕所右同断、

同

一死罪 首を刎、死骸取捨、様者等ニ申付、

但、闕所右同断、

同

一下手人 首を刎、死骸取捨、尤様者ニハ不申付、

同

一晒 日本橋にて三日晒、

但、新吉原の者、所之儀ニ付、惡事(致)候ハ、大門

口にて晒、

同

一遠島 江戸分大島・八丈島・三宅島・新島・神津しま・御蔵島・利しま、

右七島之内え遣、京・大坂・西国・中国分流罪之分は、薩摩・五島之島々、隠岐・壹岐・天草郡（え）遣ス、

但、田畑家財家屋敷（共）、闕所、

同

一重追放 関八州

武蔵 相模 上野 下野 安房 上総 下総 常陸 其外山城 摂津 奈良 伏見 堺 紀伊 長崎 尾張 駿

河 甲斐 東海道 木曾道中 日光道中 生国 悪事（之）国

但、闕所右同断、家財無構、

同

一中追放 江戸十里四方、其外京 大坂 奈良 伏見 堺 和歌山 長崎 名古屋 甲府 水戸 東海道 木曾道中 日光道中 生国 悪事之國

但、闕所右同断、家財ハ無構、

同

一輕追放 江戸十里四方、其其京（外） 大坂 甲府 東海道

日光道中 生国 悪事之國

右追放之者、御構場所書付相渡、御郭外門ニて放遣ス、侍ハ其場所ニおゐて大小渡遣候事、

寛保二極、追加

一於京都重追放申付候者ハ、右御構場所之外ニ河内・近江・丹波、三ヶ国（を）入相構、中追放ハ別儀無之、

従前之例

一江戸十里四方ハ追放ハ、日本橋分四方へ五里ツ、

延京（享）元

但、在方ハ居村構、闕所無之、然共、利欲ニ拘り候得は、闕所、尤年貢等未進有之ハ、家財共闕所、

同

一江戸払 品川・板橋・千住・両国橋分四ッ谷大木戸（之）内御構、

但、無闕所、利欲（ニ）拘り候得は、右同断、在方は居村、江戸町人は居町、

同

一所払 居村 居村（町）

但、無闕所、其外右同断、尤年貢等未進在之ハ、家財

とも闕所、

延京(享)二極、追加

一自本罪一等其御仕置、可為遠島以下之事、

重きハ入墨又ハ敲之上重追放、中追放ハ重追放、輕追

放(ハ)中追放、江戸払ハ中追放、所払ハ江戸払、

右之輕重可心得事、

同

一自本罪一等輕(キ)御仕置、死罪ハ遠島、重中輕追放ハ右

ニ可准ス、

同追加

一田畑持之内半分或は三分一取上候者ハ、過料、又は村高

三分二取上候分ハ、老反歩ニ付(五貫文過料、村高半分

取上候分ハ、老反歩ニ付)三貫文過料、同三分一可取上

分ハ、(老反歩ニ付)式貫文過料可申付、

従前之例

一門前払 奉行所門前ハ払遣ス、

同

一奴 望之者有之候得は遣ス、

同

一追院 寺え不帰、門前ハ直ニ払遣ス、

同

一退院 住居之寺を可退旨申渡ス、

同

一一宗構 其宗旨を構、

同

一一派構 其一派を構、同宗ニても外之流ニ成候得ハ、無

其構、

同

一改易 大小を渡、宿え帰シ、夫ハ立退候様申付、

但、家屋敷取上、家財無構、

同

一閉門 門を閉、逼塞、釘メニ不及、

(宝永元極)

但、病氣之節、夜中医者呼候義并出火之防不苦、惣て

火事之節、屋敷危躰候ハ、立退、其段頭支配え申達ス、

従前之例

一逼塞 門を立、夜中潜リハ不目立様ニ通路不苦、

一遠慮 門を立、潜り引寄、夜中不目立様ニ通路不苦、

同

一戸メ 門を貫を以釘メ、

一押込メ 不致他出、戸を建籠置、

享保五極×

一敲キ 数五十、重キは百、

但、牢屋門前ニテ科人之肩背尻を懸、背骨を除き絶入不致様ニ檢使役人遣、牢同心ニ為敲候事、町人（ハ）家主名主、在方ハ名主与頭呼寄、敲候を為見候て引渡遣ス、無宿者ハ、牢屋門前ハ払遣ス、

同

一入墨 牢屋敷ニテ、腕廻巾三分ツ、式筋、左之通、

但、入墨跡癒候て出牢、



一手錠 其掛ニテ手錠懸ケ封印、五日目ニ改、百日手錠之

分ハ、隔日改、

享保三極×

一過料 三貫文、五貫文、重キハ拾貫文、式拾貫文、或は金式拾両又は三拾両、身上（ニ）応シ村高ニ准シ、定日三日之内為納可申事、

但、至て輕キ身上之者、過料難差出ハ、手錠、

従前々ノ例

一勢州山田於御神領ハ、死罪以上晒御仕置無之、

享保八

一二重御仕置 過料之上戸メ・手錠、役義取上過料、敲之上追放、入墨之上追放・所払・敲、余ハ右（ニ）准、

寛保二

一科有之女之義、中追放ニハ御関所之内相模国は（御構之）外ニ付、中追放迄は可申付、重追放ニハ申付間鋪事、

同四年極×

一遠島之者、船中ニテ逢難風ニ、破船之後助命ニ候ハ、又可為流罪、若助命候て行衛不相知候ハ、人相書を以致浦触、身寄之者ニも尋可申付事、

但、逢難風、浦々吹流れ候時ハ、其浦ハ警固之船為出置、順風次第致出船候、若破船候ハ、流人ハ其島ニ揚置、所之者共（ニ）為致警固、注進次第替り之島舟仕立差越候事、

一八丈（島）御藏島兩島（ニ）之流人ハ、三宅島迄差遣シ、島守へ相渡、夫ハ順風次第、右兩島ニ遣候事、

一遠島之者、船中ニテ致病死候節、御関所前ニ候ハ、死

骸番人え為致見分、其所へ死骸片付候事、

但、御関所を越、相果候ハ、其所(ニ)死骸片付、名

主并寺院証文取之、証文ニ引合、島守へ相渡シ、若又

島近所ニて相果候ハ、其島守へ死骸相渡可申事、

一御目見以上之流人并女流人ハ、船中別囲ニて差遣候事、

寛保三極

一盲人御仕置 遠島追放等ニ可成科、親類え預ケ、居村町

内々外へ猥ニ出問敷旨申渡、

従前々例

一座頭は惣録え科之次第申聞、座法之通可申付旨申渡、

同

一非人手下 穢多弾左衛門立会、非人頭へ渡ス、

享保十七キハ

一遠国非人之手下 其国へ可遣旨申聞、弾左衛門え渡、

一非人御仕置 穢多弾左衛門え渡シ、仕置(可致)旨申付、

但、遠国非人は、其所之穢多頭え仕置申付候様ニ申渡、



百ヶ条也

御定書終

(奥書)

右御定書之条々、元文五^庚申年五月、松平左近将監殿(を

以)被 仰出候趣、先例其外評定之上追々奉窺之、今度

相定者也、

寛保二^壬戌年三月廿七日

寺社奉行

牧野越中守

同

大岡越前守

大目付

石河土佐守

町奉行

島 長門守

同

水野対馬守

御勘定奉行

木下伊賀守

同

神谷志摩守

右之趣、奉達

上聞、相極候、奉行中之外不可他見有者也、

（＊高塩注―「寛保二_{壬戌}年四月」および「松平左近将監」の語を欠く）

初鹿野家之御蔵書也、写之、

【参考】 对校本の奥書

1 「御公儀百箇条御定書」（著者蔵）

底本に同じ。ただし、「初鹿野家之御蔵書也、写之」の文言は存しない。

2 「御大法御定書百箇条」（三重県立図書館武藤文庫蔵）

右御定書之条々、元文五_{庚申}年五月、松平左近将監殿を以被仰出候趣、先例其外評議之上追々奉窺之、今度相定之者也、

寛保二_{壬戌}年

三月廿七日

寺社奉行

牧野越中守

同

大岡越前守

大目付

石河土佐守

町奉行

堀_應 長門守

同

水野対馬守

御勘定奉行

木下伊賀守

神谷志摩守

右之趣、奉達

上聞、相極候、奉行之外不可有他見者也、

松平左近将監_{在判}

3 「御定書」（明治大学図書館蔵）

右御定書之条々、元文五_{庚申}年五月、松平左近将監殿を以被仰出之趣、先例其外評議之上追々奉窺之、今度相定之者也、

寛保二_{壬戌}年

三月廿七日

寺社奉行

牧野越中守

おなしく

大岡越前守

大目付

石河土佐守

町奉行

島 長門守

同

水野対馬守

御勘定奉行

木下伊賀守

同

神谷志摩守

右之趣、奉達

上聞、相極候、其掛り御役人之外不可有他見者也、

寛保二壬戌年四月

松平左近將監

上聞、相極候、其掛御役人之外不可有他見者也、

寛保二壬戌年四月

松平左近將監

4 「公事方秘書 全」(著者蔵)

右御定書之条々、元文五庚申年五月、松平左近將監殿を以被

仰出候趣、先例其外評議之上追々奉伺之、今度相定者也、

寛保二壬戌年正月廿五日

寺社奉行

牧野越中守

大岡越前守

町奉行

石河土佐守

島 長門守

御勘定奉行

水野対馬守

伊賀守

神谷志摩守

右之趣、奉達

